



# 給食（食育）とエスディージーズ

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

当園では、自園調理による給食（食育）を保育指導の重要な位置づけとして大切にしておりますが、0歳児から5歳児までの乳幼児が対象であり対応内容は広範囲です。基本的に食事を楽しんで残さず食べることをモットーに、健康な体、発育盛りの体力増進、偏食を減らし、しっかりとよく噛んで、食事のマナーやお箸の使い方等までを念頭に実施しております。

実際の指導は、発達年齢や体調・体力、食べる量や嗜好性、家庭環境等で個人差の有ることも視野に入れなければなりません。月一度の給食会議は大切な打合せで、園長、主任教諭そして二人の栄養士（二人は栄養教諭）、調理師からの率直な意見交換で当園の食育指導

の方向性が決められます。

令和三年度の食育指導計画によりますと、めざす子ども像として  
 ①お腹がすくリズムの持てる子ども  
 ②食べたいもの、好きなものが増える子ども  
 ③一緒に食べたい人がいる子ども  
 ④食事作り、準備にかかわる子ども  
 ⑤食べ物を話題にする子どもを掲げております。

さらに具体的目標としては、0歳児の発達に沿った離乳食のすすめ方、1・2歳児の発達に沿った食育活動、3歳から5歳児の活動目標（ねらいや内容）に区分し各月ごとに展開される計画によります。

その様子は、毎月の職員会議に報告され、また保護者ご家庭には、ホームページや食育便りでお伝えし状況の共有を図り、共に子ども

像の目指す連携を大事にしており  
 ます。

このところ栄養士さんの話題は、各年齢児とも残食が多いことが気掛かりのようです。確かに年度初めクラスや担任保育教諭が変わったり、子ども達の活動の活発さが低調な時期ですから、お腹のすくエネルギーシユナリズムに乗れないこともあるのでしょうか。

幼児はもともと好奇心や活動性が旺盛で、園生活の中で自分達がやってみたい興味や関心に誘われると行動します。

その遊びが、年度初めはどうしても様子見・遠慮がちで活発さに欠けて、結果的に腹ぺこリズムに乗れず食欲旺盛とまでいかず、残食が多くなる要因かもしれません。さて残食指導には、もう一つの大事な指導観点が加わりました。

エスディージーズ（SDGs）・持続可能な開発目標です。二〇一五年に国連加盟国が二〇三〇年まで十五年間のうちに達成する目標を掲げました。十七の目標で、①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに等々続きますが、例えば世界人口の九人に一人が飢えに苦しんでいる中、日本では食べられる食品を年間六〇〇万トンも廃棄している

報告です。賞味期限や給食の残食等を含めフードロスを減らす考えや工夫が必要です。

食べ物の大切さを幼い頃から学ぶことが大事な指導です。

私達もかつて食糧難の時は「もったいない」精神でしたが、やがて飽食の時代を迎え安易に食べられるものを捨ててしまつております。世界的に見れば飢餓に苦しむ人々もおり全く「もったいない」のです。幼児期からの食育指導は、食事を楽しんで残さず食べることを中心に偏食を減らし、しっかりとよく噛んで健康な体づくりに貢献することを重視しなければいけません。



「SDGs」17目標ロゴマーク

## 異年齢児との交流

園長 坂本 信行

### 職員の連携の重要性

今年度の経営の重点の一つに「教育と保育の一貫した乳幼児教育課程の実践に努める」を掲げている。具体的にどのようなことかと言えば、①幼稚部、家庭部、保育部の職員の連携を深める。②異年齢園児の交流を図る。③乳児からの一体的な教育保育課程を見直すことである。

本園は、昭和四十六年から家庭部（託児部）を、平成十九年から保育部（3歳未満児）を設け、平成二十二年からは「もりおか保育園」と「盛岡幼稚園」の二つの施設として運営してきた。そして、平成二十七年から新制度の幼保連携型認定こども園として単一施設に移行した。しかし、園の組織は、今までの沿革上の経緯から幼稚部、家庭部、保育部に分けて運営している。それを幼保一元化の良さを、より一層活かすために、前述した①、②、③の充実と検討が必要になってきた。

乳幼児期は身体発育だけでなく運動能力等、発達の変化が非常に大きい。したがって、従来の幼稚園のように満3歳児からの園児だけを対象にしていれば、変化の激しい0歳から2歳までの発達理解が不十分となり、その後の教育保育活動に影響をきたす。また、異職種職員も増え、園児一人ひとりに対してより適切な保育教諭の関わりを充実させるには、職員間の情報交流や連携が重要である。

### 異年齢園児の交流の必要性

現在、少子化で子どもの数が少ないことから兄弟姉妹の遊びも、近所での同年代の子どもの遊びや付き合ひも少ない。また、育児放棄や児童虐待のニュースも聞かれ、子育てに関しての家庭環境にも課題が多くなってきている。子どもが多かった時代には兄弟姉妹や近所の子どもたちとの遊びを通

して、人の付き合い方を知らず知らずのうちに学んできたが、今は意図的にそのような機会を計画しなければならなくなった。このようなことから、異年齢の交流は貴重な体験になっている。

### 一体的な教育保育課程の作成

以前から幼稚部、家庭部、保育部それぞれの教育保育課程は作成され、それも互いに関連したものであった。しかし、幼保一元化の流れと一体的な運営が一層求められ、幼保連携型認定こども園の良さを活かすために、もう一度全職員で、各年齢の計画の見直しが必要になった。

### 成果

経営の重点に取り上げてから数年になる。年々その成果があらわれてきている。例えば、職員の連携では、職員の園内研究・研修は、共通テーマで取り組み、保護者向けに教育課程をクラスごとにポータルフォリオにまとめ配布できた。また、昨年からの新型コロナ対応でも全職員で共通理解を図り、共通実践に努めている。異年齢交流は、コロナ感染予防の観点から制

限を加えざるを得ないが工夫して実施している。

4月のCクラスの保育日誌に、「4月当初は、園児の不安が多い。そんな中で、Aクラスのお兄さんお姉さんが世話してくれたり、一緒に遊んでくれたりして不安な気持ちの軽減になっている。」との記載がみられた。このような取り組みがあつてか、5月には年長さんの遊びにお店屋さんごっこがみられ、それに年少さんがお客さんとして参加していた。

子どもにとって、「協調性や思いやりの心」の育成は難しい。そんな中で、異年齢の子どもたちとの交流を通して、人と関わる力の芽を育みたい。



「年少さんと本を見ている年長さん」

# 子どもの遊び・生活から



## 心も体も大きくなろう！

Aクラス担任 竹岡 真美

「歯が抜けたー！」ある日の給食時間、この声でみんなびびくり。前歯がグラグラしていた子の歯が抜けた瞬間でした。「大丈夫？飲み込んでない？」と口の中を探すと、無事に抜けた歯も見つかって一安心。前歯が1本ないにつこり笑顔はとても可愛らしいものでした。いつもは感染症対策で『おしゃべりなしで食べる』が約束ですが、この時ばかりはみんなも「みせてみせて！」「よかつたね」「枕の下に入れておくといいんだよ」などと声を掛けていました。個人差はありますが、歯が生え変わる時期の子も多く、「大人の歯になるんだね」と大きくなることを一緒に喜んでいきます。

他にも、ふと手を繋いだ時の手の大きさや、抱っこした時のずっしりとした重さから、大きくなったなあと感じることが増えました。目に見える体の成長だけでは

く、遊びや生活に積極的に取り組む姿や年下の子と触れ合う姿などから心の成長も感じる日々です。これからもいろいろな経験をを通して心も体も大きくなっていくみんなを近くで見守りながら、幼稚園最後の一年を大事に過ごしていきたいと思っています。

## すてきな力

Bクラス担任 村松 千尋

4月、ピンクのバッジと進級の喜びを胸にスタートしたBクラス。32名の元気いっぱいいな子ども達は、戦いごっこに鬼ごっこ、みんなでゲーム…と思いつき切り遊んでいます。先日は、しっぽ取りゲームで子ども達も先生達も汗びっしょりになるくらい走って遊び、「しっぽ、たくさん取ったよ！」「またやりたいね！」と大盛り上がりでした。遊びや活動を通して「みんなと一緒に楽しみたい」「みんなと一緒にこんなこともできるんだ」と感じ、経験できる一年になるよう、願っています。



「今日はどんなお話かな？」

さて、いつも賑やかなBクラスですが、静かになる時間があります。絵本の読み聞かせの時間です。ワクワク・キラキラした目で絵本を見る子ども達は、読み聞かせが始まると一気に集中。その姿から、絵本が大好きなことが伝わってきます。最近では『11ぴきのねこどろんこ』を読むと「私達もどろんこ遊びしたいね」と、翌日から泥団子作りが始まりました。遊びを広げる力、集中力、思い切り楽しむ力など、たくさんの素敵な力を持つていることに感心する毎日です。これからも日々の成長を支え、見守っていききたいと思います。

## たくさん関わりの中で…

C1クラス担任 田口 千聖

真新しいエプロンと、ピカピカのバッジをつけて、「大きくなったんだ！」と嬉しそうに笑顔が集まった入園式。嬉しさの一方で、新しい環境や、おうちの方と離れる不安も感じていたことでしょう。泣いている姿もまるごと受け止めながら、少しずつ幼稚園が好きになってくれるといいなあと思いつきながら関わってきました。

4月、「おじゃましま〜す♪」ポンポンとCDを持って登場したAクラスのお兄さんお姉さん達。軽快な曲に合わせてダンスを披露



「ダンスショー見て♪見て♪」





してくれる毎日でした。客席を作って手拍子をしていた子ども達も、次第に真似して踊り出すように：☆今ではすっかり振りも覚えてみんなが大好きな一曲になりました。お店屋さんや劇っこなど、色々な遊びに誘ってくれる A クラスさん。それをきっかけに、魚釣りっこやアイス作りなど、色々な遊びが始まっています！

何でも初めてのことはドキドキですが、たくさんの人との関わりの中で、『やってみよう』『楽しかった』という気持ちを大切に、遊びや行事など様々な経験を積んでいけたらと思います。

**春の姿から**

ふたばクラス担任 佐々木 紫

大きな泣き声に包まれた新年度初め。この3か月の間に子どもたちが少しずつ園生活に慣れ、心地よく過ごせるようになってきていること、おうちの方にも感じて頂けているのではないかと思います。新しい環境に不安を覚え、思いが言葉にならない分、小さな体全部で泣いて、突っ張って、一生懸命思いを表出する子どもの姿。大人目で見ると切なくもあるのです



「おみず きもちい〜い！」

が、逆を言えば「家族が大好き！」という気持ちの表れでもあり、私は（変な言い方ですが）嬉しく思う部分があるのも正直なところです。大泣きして思い切り表出できないのは、ご家庭でたくさん可愛がられ、たっぷり愛情を受けて育ってきた証拠、と。また同時に、一人一人が大切な命、大切な存在であることを再認識し、子どもたちをお預かりすることの責任の大きさが改めて心に刻まれます。

4月には想像できなかった程たくさんの笑顔が咲くようになった保育部。これからもご家庭と一緒に育ちを喜び合い、実り多き時間を過ごしていければと思います。

ふたば会会長から  
**ただ今己育て奮闘中**  
館野 あゆみ (A 誠和)

『子育ては己育て』と以前に読んだ本の一節です。子供を育てながら親として自分自身を成長させると言う意味ですが、今現在三人の子育てをしながら日々この言葉の意味を噛みしめております。親としての愛の器、忍耐力などさまざまな成長させられる毎日です。

私の仕事は朝八時からで、それに合わせて毎朝子供たちと出発するのですが毎日時間との闘いです。「この服は嫌だ」と長女。朝からアイスを食べようと冷蔵庫をガサガサと長男。静かにご飯を食べるかと思ったらライスボールを作って投げてくる次女。押し迫る出発の時刻についてしまおう「早くしなさい」の一言に、朝からあまり怒らないようにと忍耐しつつもつい口調はきつくなってしまう。反省しながら明日は少しでも心に余裕をもって笑顔で子供達と向き合おうと思いつながらただ今己育て奮闘中です。

ふたば会におきましても互いに成長できるよう努めて参りたいと思います。

**編集後記**

園庭の木々も色濃くなり、今年度も観察園にはいろいろな野菜やお花が植えられ「早く大きくなれ」と生長と収穫を楽しみに水やりが始まりました。そして子ども達は心地よい居場所ができ、自分の世界が少しずつ広がり始めたところ。ママにあげる」ときらきらの小さい欠片を見つけ大事に持ち帰る年少児。昨年できなかった遊具ができるようになり我慢気に披露する年中児。初めての泥団子作りに真剣になる年長児。「ママ」と全身で泣いていた保育部の子ども安心できる環境ができて笑顔いっぱい過ぎていきます。まだ制限が続く毎日ですが心に余裕を持ち、保護者の方々と共に子ども達の育ちをこれからも見守っていきたいと思います。

学校法人 内丸学園  
幼保連携型認定こども園  
盛岡幼稚園  
〒020-0001  
盛岡市中央通一六四七  
TEL 六二二二二三〇一  
理事長 坂本 洋